

【様式】

令和2年度 学校マネジメント 最終報告書

学校名( 三重県立神戸高等学校 )



1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 不断の進化を続ける「高品位な進学伝統校」 ○ 生徒、保護者、地域から信頼され、期待される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 新たなことに積極的に挑戦する「気概」と、困難に立ち向かう「勇気」を持つ生徒 ○ 自主自立と協働の精神にあふれた社会で活躍できる生徒
	ありたい 教職員像	「生徒の育成」を願い、授業の充実や学校運営に進取の「気概」を持ち、「知恵」を絞ると共に「和」して働く「協働」の精神を持つ教師集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 学力の向上と希望進路実現、充実した教育内容と楽しく安全安心な高校生活環境</p> <p>〈保護者〉 子どもの学力向上と進路保障、基本的な生活習慣向上と高いレベルでの人づくり</p> <p>〈地域社会〉 地域の伝統校としての進学実績向上、地域を担うリーダーの育成・輩出</p>
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待
		連携する相手への要望・期待
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○ 学力向上については、職員集団として目標や課題について意思統一をすると共に、生徒にデータを示して意識付けをすること、競争意を持たせること、下位層の持ち上げが必要。</p> <p>○ 鈴鹿学については PDCA サイクルの活用や実績の積み上げで今後質の向上が期待できる。社会に必要な資質育成にも有効である。</p> <p>○ 職員の指導力向上については、研修主任の配置等組織的に行うこと、教科会の有効活用、授業をいつでも誰にでも見てもらうような風土づくりが必要。</p> <p>○ 働き方改革については難しい課題であるが、少しでも業務の平準化や合理化を進めると共に、職員の意識改革もすすめてもらいたい。</p>
(4) 現状と課題	教育活動	<p>生徒は一定の学力を有しているが、周りの環境に流されたり、安易に妥協したりするなど、十分に学力向上や進路実現につながっていない。また、主体的に学ぼうとする姿勢を培っていく必要がある。多くの生徒がクラブ活動に熱心に取り組んでいるが、学習との両立が課題。学習に軸足を置いた文武両道の推進が必要である。</p> <p>いじめや特別指導案件は極めて少なく、まじめに努力する生徒が多い。一方、やや積極性や一歩踏み出す力に欠ける面がある。生徒により能動的な学びや生活を促す必要がある。</p> <p>生徒の進路選択に資するため、学科や学年に応じて講演会・ガイダンス等を実施すると同時に、インターンシップ等の体験に積極的に取り組むよう促しているが、現状では将来への見通し、早期からの進路意識といった点には課題がみられる。</p>

学校 運営等	<p>教員は教科指導、進路指導、生活指導、部活動指導等において真摯に取り組み、一定の成果を上げているが、各教員や学年単位での取組に偏る傾向がある。情報共有を進め、組織的な取り組み、成果となる体制づくりが必要である。また、地域の中学生(特に上位層)の他地区へ流出が増加している現状があり、本校の価値・魅力を高めること及び情報発信の強化も課題。また、各教員が持てる力を十分発揮するためにも、過重労働の削減や総勤務時間の縮減に取り組む必要があるが、業務の合理化や削減が難しい現状となっている。</p>
-----------	---

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○生徒の主体的な学習態度を養うとともに、3年間を通じて継続的計画的な学習ができるシステム構築を目指します。</p> <p>○生徒の学習意欲と学力向上を図ると共に、早期からの進路意識向上に努め、国公立に100名程度合格できる進学状況を目指します。</p> <p>○生徒の生活習慣向上とともに、自主性・積極性を引き出すリーダーシップ教育に取り組みます。</p>
学校運営等	<p>○授業内容の改善や授業力向上に組織的に取り組む風土を醸成し、生徒の授業満足度理解度を向上させます。</p> <p>○新指導要領および高大接続改革に更に理解を深め、学校としての進むべき方向性・対応策を検討決定します。</p> <p>○学校の魅力化をすすめると共に学校からの情報発信を強めます。また、職員の仕事満足度の向上や働き方改革に努めます。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力向上と 学習の習慣 化	<p>授業の充実や Challenge on Saturdays(CS)の効果的な活用による学習習慣の定着及び基礎学力向上</p> <p>探究的活動(理数科課題研究 普通科「鈴鹿学」)の充実</p> <p>【活動指標】CSの活用・生徒授業評価 2回実施</p> <p>家庭学習調査 4回実施</p> <p>課題研究・鈴鹿学についてポスター発表及び学習成果発表会の実施</p> <p>【成果指標】授業満足度・理解度 80%以上</p> <p>学習時間 15時間/週 65%以上</p> <p>学びの基礎診断(スタディサポート GTZ)B1 ↑ =50%以上</p> <p>科学探究フォーラムでの入賞 3チーム以上</p>	<p>CS 後期登録</p> <p>1年 2年 3年</p> <p>講座 31% 36% 36%</p> <p>学校 32% 8% 16%</p> <p>自宅 37% 49% 42%</p> <p>◆授業アンケート(3月実施)</p> <p>授業理解度</p> <p>R2 85.0%(A39.4 B45.6)</p> <p>R1 82.4%(A41.2 B41.2)</p> <p>◆学習時間(1月調査)</p> <p>週 15時間以上</p> <p>1年 37% 2年 26%</p> <p>(R1⇒38% 52%)</p> <p>◆進研模試 1月 GTZ</p> <p>1年国 B2 数 B2 英 B3</p> <p>2年国 B3 数 B3 英 B3</p> <p>◆鈴鹿学⇒7月に市役所への現地調査実施</p> <p>12月ポスターセッション</p> <p>1/27 成果報告会(市民会館)</p>	◎ ※

		2/14 科学探究フォーラム 課題研究・鈴鹿学で5チームが優秀賞受賞	
進路指導・ キャリア教育 の充実	キャリア教育の充実、生徒の早期の進路意識向上と希望進路の実現 【活動指標】進路希望調査の早期実施 ガイダンス等の適時実施 【成果指標】早期進路意識醸成 国公立大学合格 100人以上(現役・卒業生合算)	感染症のため保護者への説明が直接できなかったため、Classiによる情報発信で代替 国公立(3/22 現在) 現役 80 卒 5=85	
人づくり 安全安心・	リーダーシップ教育(自主自立)の充実 安心安全教育の充実 交通事故防止命を大切にす教育推進といじめ防止 【活動指標】各種事業等への案内・参加促進 新型コロナ感染症対策の実施 登下校指導、交通安全対策実施合計 15 回以上 いじめアンケートの実施 2 回 講話等 3 回以上実施 【成果指標】各種事業等への参加生徒 20 人以上 交通事故減少(昨年度 14 件) 特に重大事故及び生徒過失による事故 0 件 いじめ認知件数 1 件以下 SNS 問題行動 0 件	・ピョンジヨム高校との交流ははじめ、様々な事業が中止の中 ディベートセミナー4名 地域創造サミット1名が参加 予定も中止 科学オリンピック8名 みえ科学探究フォーラム 5チーム(オンライン) 神戸中学アシスタントチューター2回延べ51名 神戸小学校出前実験授業 22名 ・交通事故15件 ※本校生徒過失7件 ・いじめは認知0件 ・SNS問題行動1件	
部活動の 充実	部活動の振興と部活動を通じた人材育成 【活動指標】生徒の部活動加入 85% 3年間継続 80%以上 【成果指標】東海大会以上出場クラブ数 5以上	・部活動加入(4月登録時) 全体 88% 3年生 91% ・コロナの影響で中止された大会も多い中健闘した東海大会以上出場クラブ 陸上競技(全国5位)、卓球、剣道 吹奏楽、放送、美術 上部大会のなかった山岳部だが、文部科学省特別表彰、スポーツ庁長官特別表彰受賞	

### 改善課題

授業アンケートでは良好な結果が得られているものの臨時休業等の影響もあり、学習の定着が進まず、学力向上が実現できなかったことは大きな課題。ただし、CSについては登録導入により、特に1年生は学校で勉強に取り組む生徒が増えるなど、前進も見られ、次年度は結果に繋がるよう生徒のモチベーション向上を図る必要がある。鈴鹿学は2年目を迎え1年の「プレすず」か

らの系統的な取り組みとなり、成果の向上が期待できる。また、本年度はICT環境が一挙に整備された。コロナ禍もこのことには追い風となり、次年度は活用を更に進めるため研修や対策が必要。学校行事や部活動や国際交流等は新型コロナウイルス感染症に大きな影響を受けたが、今後も「新しい生活用式」での対応も必要となる。交通事故について生徒の過失事故が残念ながら増加した。交通マナーはもとより、SNSやスマホ使用についても継続したこまめな指導が必要。コロナ禍による臨時休業の影響もあり、メンタル面での相談や保健来室数が例年に比べ増加し、より組織的な対応をしていく必要がある。

## (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教員の指導力向上	教科会による組織的定期的な授業研究の実施 教員各人が指導力向上のためのベンチマーク及び研修実施 主体的・対話的で深い学び(AL)の実践 生徒による授業評価の積極的活用 <b>【活動指標】</b> 年間を通じた授業相互参観 教科会等組織的な授業改善取組の実施 指導に関わる研修会の実施 2 回以上 校外研修会(入試問題研究会・授業力セミナー等)への参加教員 1 人平均1回以上 模擬試験の分析及び校内共有 生徒による授業評価を 2 回実施 <b>【成果指標】</b> 指導方法に関する肯定的評価 75%以上 職員満足度調査の研修項目肯定的意見 70%以上 生徒の基礎学力向上 GTZ 平均 B1 以上の維持	各教科会で指導法検討・模試分析活用 ベンチマーク・セミナー ⇒感染症で訪問困難 セミナー等参加 7(R1=30) ◆授業アンケート(3 月実施) 指導法肯定的評価 R2 87.6%(A48.3%B39.3%) R1 88.7%(A56.4%B32.3%) 主体的な活動・思考(新設) R2 86.9%(A46.5%B40.4%) ◆職員満足度調査 研修肯定意見 50.9% (R1 58.8%)	◎ ※
教育改革対応及び学校運営全般	新教育課程の策定 学校の魅力化及び発信力強化。 Classi の有効活用 創立百周年事業の円滑実施 新型コロナ感染症への適時適切な対応 <b>【活動指標】</b> 教育改革推進委員会 8 回実施 ホームページによる情報発信強化 Classi による通信配信及び各種アンケートの実施 創立百周年事業の円滑実施 新型コロナ感染症対策の実施 <b>【成果指標】</b> 新教育課程完成 後期選抜受検倍率 1.3 倍確保(昨年度 1.26 倍) Classi 活用肯定的評価 75% 新型コロナ感染症者 0 人	・新教育課程策定完了 ・教育改革推進委員会 5 回 ・HP4 月全面改訂 ・Classi の使用はアンケート活用、通信等配信実施 ・百周年事業は市民会館閉館のため式典・祝賀会、そして記念誌発行を次年度へ延期。 ・新型コロナ感染症 1 名が 8 月に罹患(家族からの感染)も学校での他者への感染はなし ・後期選抜倍率 1.25 倍	
働きやすい職場づくり	職員間の意見交換機会を設ける 総勤務時間の縮減と働きやすく働きがいのある職場づくりを目指す <b>【活動指標】</b> 定時退校日 12 日以上設定・退校者率 90%以上 会議時間 1 時間以内 90%以上	・1月末現在 平均時間外 21.8h R1 同時期 34.6h ・45 時間以上延べ人数	

	<p>全部活動休養日週 1 日以上 90%以上</p> <p>【成果指標】一人当たりの月平均時間外労働 30 時間以下 年間 360 時間を超える時間外労働者 0 人 月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人 1 人当たりの年間休暇取得日数 18 日以上</p> <p>職員との対話増進、職員満足度の向上</p> <p>【活動指標】職員との対話年間 3 回以上 満足度調査の実施</p> <p>【成果指標】職員満足度 70%以上</p>	<p>71 人(R1=97 人)</p> <p>・80 時間以上延べ人数 30 人(R1=84 人)</p> <p>・1 人あたり平均休暇取得 15.0 日(R15 17.0)</p> <p>・職員との対話は悉皆では 2度終了。あと 1 回年度末 までに実施予定</p> <p>・満足度調査 R2(昨年度) 学習面 93.0%(98%) 授業外 98.0%(98.0%)</p>	
--	--	---	--

### 改善課題

今年度企画していたベンチマーク等職員の校外研修も新型コロナウイルス感染症の影響が大きく実施できなかった。次年度以降も継続して取り組みICT活用も含め、更なる指導力向上、授業の充実に努める。創立百周年事業についても市民会館の 10 月末までの閉館により、式典と記念誌発行がR3へ延期となった。一方令和 4 年度からの新教育課程については策定完了することができた(共通テストの出題科目が未定のため今後再検討が必要となる可能性有)。45 分授業 35 単位から 50 分 34 単位となり校時や清掃回数も変更となるため令和 4 年度へ向け運用面の検討中。HP 全面改訂による情報発信強化、学校案内の刷新(昨年度に続いて)、感染症下はありながらも学校説明会の分散実施などにより学校からのアピールに努めた。ただし、中 3 人口減少もあり、募集定数 1 クラス減の中でも本校への志願倍率はほぼ横ばい。今後の更なる生徒減少へ向けて本校一層の魅力化が必要。働き方改革については、本年度から時間外労働月 45 時間以内、年間 360 時間以内が法定となった。昨年度より時間数や人数の改善はみられるものの、目標達成には程遠い状態であり、なかなか解決策や対応ができない状況が続いている。教育活動の質を向上と働き方改革との両立が大きな課題である。

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学直後どうしても「緩み」があるのではないかと。入学直後から動機付けと振り返りができる継続的な「キャリアシート」のようなものを活用してはどうか。</li> <li>○神戸高校を選択する中学生・保護者とも「卒業後進路先」を強く意識して選択しているので、希望進路の実現をより高めるよう対策を講じてほしい。</li> <li>○生徒の心身の健康は大切である。特にメンタル面は早期の対応を大切にする必要がある。</li> <li>○教科指導の面でも情報共有は大切である。学年や教科によってうまくいっている取組などを共有し組織としての強みとできるとよい。</li> <li>○先生方は忙しすぎる。本来計画があれば PDCA サイクルで改善するべきであるが、やるべきことがあまりにも多すぎるのではないかと。精選していくことも必要。</li> </ul>
----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○早期から自らの進路や学力向上に意識を持てるように、早期に学校独自の進路希望調査を実施したり、外部模試への意識付けを行う。</li> <li>○生徒により丁寧に対応するため、面談を組織的に実施できる体制を整える。</li> <li>○整備された ICT の活用をよりすすめ、授業の魅力化を図る。</li> <li>○SNS やスマホについての指導、交通安全指導をより定期的に行う。</li> </ul>
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICT を率先活用するグループを設置し、活用の拡散を図る。</li> <li>○教科会での授業や学習についての研究や情報共有をすすめると共に今年度実施が難しかった校外での研修等への参加を促進する。</li> <li>○委員会や会議の精選はじめスクラップできる業務を特定し、全体の仕事量の削減を図る。</li> </ul>